昭和 34 年の 7 号台風

昭和 34 年 8 月 14 日の朝，突然武川を濁流が襲いました。この資料は，防災教育の一つの教材として活用しているものです。資料は中山嘉明氏所蔵のアルバムから掲載しています。

空から見た大武川の様子です。多くの家や田畑が流失し、武川村の中心地の武川銀座は、一瞬で河原となってしまいました。上流の黒戸山の斜面が崩落し、川は一時的に自然のダムとなり、それが一気に崩落して下流に押し寄せました。

橋という橋がすべて流失してしまったため、対岸にワイヤーをかけ、滑車で人々を向こう岸へ渡しました。消防団の人が大きな声で対岸にいる相手に声をかけています。

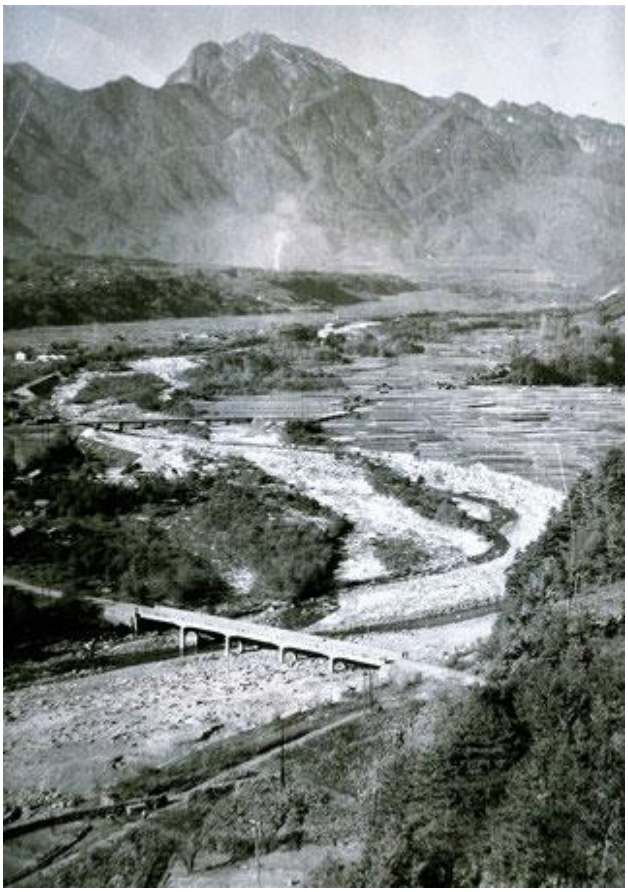
昭和 34 年 8 月 26 日，大災害から 12 日後に，当時の岸信介首相が災害地に入りました。この場所は，武川銀座と呼ばれていたところです。案内は，当時の一木村長です。

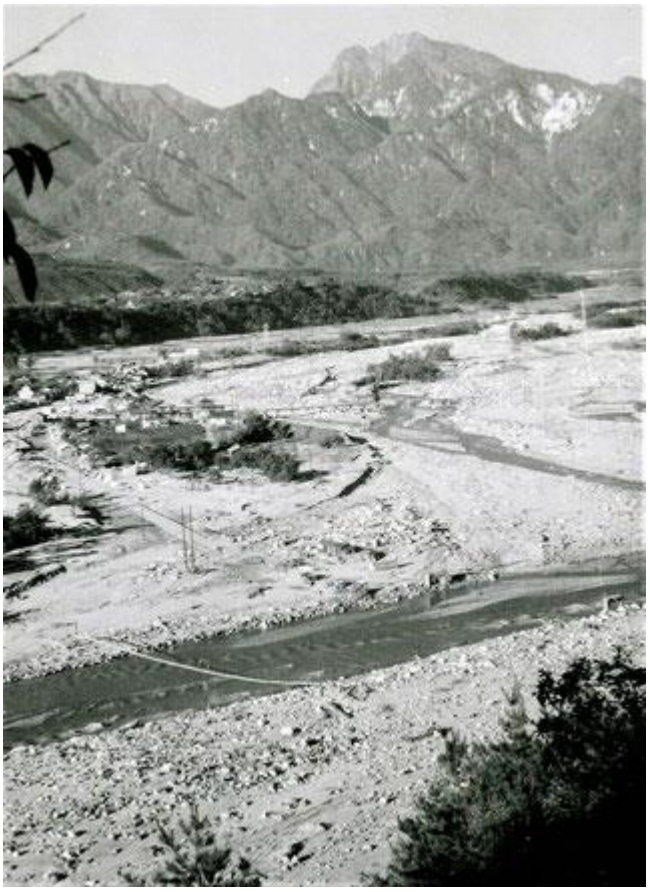
ここは，古屋敷と呼ばれていた場所です。流される前は，稲穂が出そろった水田が広がっていたところです。

---

8 月 14 日午前 8 時ころ，あっという間に民家 113 戸が流出し，18 名の生命を奪い，行方不明者を加えて 23 名という大災害となりました。

武川が流されているところの写真。大武川の氾濫により，大武川橋や釜無川橋がことごとく流されてしまっている。橋台の一部が中央付近に見えています。





流出前の写真では，下三吹地区の田畑の様子や，大武川が流れる河川の様子がよく分かります。流されてしまった後の写真では，田畑や家屋など，すべてが失われています。

橋がことごとく失われてしまったため，人々は対岸にいる家族や親せきの消息が分かりませんでした。そこで，このように唐紙や障子，襖などに大きく墨で書き，対岸にいる知り合いや身内に無事を知らせました。

下三吹区長石水信義氏宅に水害対策本部が設けられました。写真は，堤防の設置をめぐって県庁に陳情している村民です。

これは，7 号台風のあとの 15 号台風（伊勢湾台風）の時に下三吹の公会堂に避難している人々です。武川村当局及び区長からの指示によって避難しています。

武川小学校では、ほかにも多くの写真を展示しています。7 号台風のほかにも、この年の 9 月に伊勢湾から上陸した台風 15 号（伊勢湾台風）の時の様子、人々が避難しているときの様子、復旧に向けて人々が努力している様子などの写真もあります。ぜひご覧ください。